

▶ 口腔がんは早期発見がポイント! ◀

口腔がんとは

口腔がんとは、お口の中にできるがんの総称です。具体的には、歯以外の全ての場所に発生するもので、日本人の場合には舌がんが最も多く、全体のおよそ60%を占めています。それ以外では歯肉、口底(舌の下の部分)、頬粘膜、口蓋(口の天井の部分)、という順に好発します。

現在患者数は増加傾向にあると言われており、60代が最も多く、男性の方にやや多い傾向があります。

口腔がんは、お口の中という特性上、直接目で確認することができます。初期の段階では痛み、出血というような症状は起こらないことが多く、白、もしくは赤い粘膜の異常として現れます。硬いシコリが触れるケースもあります。

がんが大きくなると、話しにくい、食事が取りづらいというような症状、また口臭が出てくるようになったり、首のリンパ節にしこりが出てきます。

早期舌がんの場合だと5年生存率は90%以上と報告されており、早めに治療するほど良い結果が得られやすくなります。

口腔ガンの受診の目安

口腔ガンはご自分でも見つけやすいのが特徴です。もし次のような症状があったら、念のために歯科を受診しましょう。



🔍 早期発見・早期治療が大事な理由 🔍

歯を失う

進行したむし歯は歯を削る部分も大きくなり、さらに治療を繰り返すと、歯は小さくなり最後は歯を残せなくなります。歯周病も重症化すると歯を支える骨がなくなり、歯を失うリスクが高くなります。

治療が痛くなる

むし歯などが進行して痛みが強くなっていると麻酔が効かず、痛みを耐えながら治療を受けなければならないことがあります。



治療期間が長くなる

初期のむし歯や歯周病であれば数回の治療で終わりますが、むし歯が進行し神経にまで達して炎症を起こしたり、歯周病が進行していると、治療期間も長くなり通院回数も増えます。

治療費用がかかる

悪化してから治療の場合、治療も複雑になり、通院回数が増えます。また、むし歯が進行し削る部分が多くなると、それを補うために大きな詰め物や被せ物が必要になり費用の負担も増えます。